

國務總理室

總理指示

號

1968. 10. 23

受信 : 受信處參照

類目 : 1968年度 豫算節約方針

1. 1968年度 豫算의 效率的인 運用
과 財政安定計劃을 堅持하기 爲하여 公共部門에서
30 億원 以上の 豫算節約이 不可避한바

2. 各 中央官署의 長은 이미 國務總理
訓令第53號 (68. 1. 20) 및 大統領指示號警
(68. 4. 17)에 依한 節約方針에 따라 豫算의
節約執行에 萬全을 期하고 있다고 思慮되나 아직도
年度末에 臨迫하여 不必要한 物品의 購入等 豫算을
浪費하는 事例가 있으므로 別添 方針에 依據 豫算
의 節約執行에 加一層 努力하여 주시기 바랍니다.

內 附 1. 1968年度 豫算節約方針

2. 部處別 節減該當額

國 務 總 理

受信部 : 外 9 ~ 38

1968年度 豫算節約方針

1968年度豫算節約方針

1. 各 中央官署의 長은 歳入豫算額을 目標額以上으로 確保한다.

2. 豫算의 轉用(流用, 移用, 移替)은 法律에서 定하는 境遇와 1968年度 豫算總則에서 許可된 俸給, 公費料金 等 不可避한 것 以外에는 認定하지 않는다.

但 中央官署의 長은 細項間 또는 目間流用 申請 額中 承認되지 않은 金額에 對하여는 이를 裁額 配分하여 不用額으로 處理토록 한다.

3. 入札殘額은 同一種類의 事業이라도 他事業에의 轉用은 原則적으로 禁한다.

4. 第2回追加更正豫算을 包含하여 事業의 工程 其他 與件의 變動等으로 年度內 竣工 또는 納品 이 不可能한 것이 明白히 豫測되는 經費는 支出

原因行爲를 禁한다.

5. 歳入隨伴經費는 歳入徵收実績範圍内에서만 支出한다.

6. 1968年 12月 1日 以後에 締結되는 30百萬元
以上の 工事의 入札 또는 納品의 契約은 原則的
으로 이를 禁한다.

7. 支出原因行爲는 12月 31日 現在로 磨勘하고

그 結果를 即時 財務部長官에게 報告한다.

8. 各 中央官署의 長은 各種 物品의 年度末 在庫
量을 適正線에서 維持하여 豫算의 夜費를 排除하
다.

9. 1968年度 歳出豫算의 節減額은 4分期 配免
時 全額 保留한다.

10. 各 特別會計도 上記 事項에 準하여 執行하여야
하며 歳入內 歳出을 嚴格히 堅持시킨다.

部 處 別 節 減 額

部 門 別 別 減 額

(1) 一般財政部門

(單位: 百萬元)

所 管 別	當 初 額 減 額	追 加 額 減 額	合 計
大 統 領 室	1.7		1.7
大 統 領 警 護 室	3.4		3.4
國 家 安 全 保 障 會 議	2.2		2.2
經 濟 科 學 審 議 會 議	1.3		1.3
監 查 院	0.6		0.6
國 務 院 理 室	5.7		5.7
經 濟 企 劃 院	20.8	1.8	22.6
外 務 部	6.7		6.7
內 務 部	90.4	7.6	98.0
財 政 部	34.1	14.0	48.1
法 務 部	68.6	23.3	91.9
文 教 部	128.0	5.4	133.4
農 林 部	40.9	3.0	43.9
商 工 部	16.4	2.3	18.7
建 設 部	5.5	26.6	32.1
保 健 社 會 部	40.3	30.4	70.4
交 通 部	27.2	5.6	32.8
文 化 公 報 部	53.9	29.4	83.3
總 務 科 學 部	11.8	3.8	15.6
科 學 技 術 部	11.5	7.3	18.8
法 制 部	1.1		1.1
國 稅 局	100.7	20.1	120.8
農 村 振 興 局	8.4	0.8	9.2
水 產 局	29.7	7.5	37.2
山 林 局	11.6		11.6
勞 務 局	8.4	2.1	10.5
原 子 力 局	7.3	2.5	9.8
計 劃 局	732.2	197.2	929.4
國 庫 券 局	14.8		14.8
國 庫 券 局	11.6		11.6

交	通	部	27.2	5.6	32.8
文	公	部	53.9	29.4	83.3
統	務	処	11.8	3.8	15.6
科	技	処	11.5	7.3	18.8
法	制	処	1.1		1.1
国	稅	庁	100.7	20.1	120.8
農	村	庁	8.4	0.8	9.2
水	産	庁	29.7	7.5	37.2
山	林	庁	11.6		11.6
労	働	庁	8.4	2.1	10.5
原	子	庁	7.3	2.5	9.8
	計		738.2	193.2	931.4
国	防	費	60.8		60.8
投	融	資	639.6	6.8	646.4
①	経	済	365.1	6.8	371.9
	文	教	8.7		8.7
	農	林	25.0	1.0	26.0
	商	工	13.6		13.6
	建	設	99.3		99.3
	保	健	20.4		20.4
	交	通	23.6		23.6
	科	学	35.8		35.8
	農	村	43.2	0.6	43.8
	水	産	43.0	5.2	48.2
	山	林	22.9		22.9
	労	働	14.6		14.6
	原	子	15.0		15.0
②	財	政	274.5		274.5
合		計	1,438.6	200.0	1,638.6

註) 追加節減額は 無任所長官室에서 節減한 것임

(2) 計 別		当初額	追加額	合 計
會 計	別			
請求権資金管理		86.4	0.4	86.8
文化財管理		7.8	5.7	13.5
国立大学附属病院		15.9	-	15.9
糧食管理		44.7	46.7	91.4
国有林野管理		1.0	23.1	24.1
専売事業		184.5	33.8	218.3
鉄道事業		444.0	105.3	549.3
通信事業		394.5	73.0	467.5
国民生命保険支郵便年金		11.0	-	11.0
調査		20.0	4.5	24.5
公務員年金		1.1		1.1
援護		50.5		50.5
矯正作業		0.3		0.3
国営TV放送事業		13.0	21.6	34.6
産業災害補償保険		6.4	3.1	9.5
重機事業		13.7	13.6	27.3
政府庁舎調遷		0.6		0.6
司法施設造成		31.1		31.1
国立医院院		6.7		6.7
合 計		1,333.2	330.8	1,664.0
總 計		2,771.8	530.8	3,302.6

(註) 追加額は 長任所長官室에서 計上된 것임